

# LAYANG LAYANG

12-1月の出来事

## 太洋商事 フロンガス回収・再生セミナー

11月29日、JICAはマレーシア環境局(DOE)共同で、地球温暖化抑止とオゾン層保護のためのフロンガス回収・再生セミナーを開催し、日本におけるフロンガス回収・再生・破壊のパイオニアである太洋商事株式会社と実施した事業の成果を広く紹介しました。

日本では2001年にフロンガス大気放出は禁止されており、本事業はマレーシア政府のフロンガス規制の取り組みを支援するものとして実施されました。

このパイロットプロジェクトを通して、合計3.9tのフロンガス回収、そのうち3.7tのフロンガス再生に成功しました(CO<sub>2</sub>換算で地球温暖化ガス約6200トンの削減)。



普及セミナー主要参加者

民間連携事業「マレーシア国オゾン層保護と気候変動対策に資するフロンガス回収・再生・破壊処理産業創出普及・実証事業」  
 期間：2017年3月～2019年2月 日本側実施機関：太洋商事株、(株)エックス都市研究所

## 歴史・自然を活かしたまちづくり—横浜のノウハウ

12月15日、ペナン州セベランプライ市にて、ブキマタジャン地域のまちづくり支援プロジェクト終了セミナーを開催しました。同プロジェクトは横浜市が持つ都市デザインのノウハウを活かし、街の再活性化のために街並みに調和する階段アートや街のガイドブック、案内板の設置をはじめとするミニプロジェクト実施を通して、まちづくりに関する市の行政能力強化を支援しました。



階段アート  
ブキマタジャンの市場



NGOメンバーによる  
訪問者への街の歴史紹介

また、これを機に住民がNGOを立上げ、住民自らが街の魅力を自覚し発信する活動にも繋がりました。

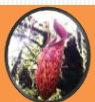
草の根技術協力事業「ペナン州における歴史・自然を活かしたまちづくりプロジェクト-横浜の都市デザイン-新興国への移行転-」  
 期間 2015年12月～2018年12月 馬側機関：ペナン州

## 本邦研修での知見を活かした、被災者への心理的ケア

1月17日、科学技術省化学局にて、本邦研修に参加した帰国研修員をファシリテーターとした被災者への心理的サポートと題するセミナーを開催しました。この帰国研修員たちは所属先の病院や州保健局等で紹介を行っただけでなく、州での公開セミナー、保健省本省、災害管理局でのセミナーをこれまでも開催しています。セミナーでは、各人がすぐに実施できそうな指の運動、アートセラピー、深呼吸によるリラクゼーション方法などの実践的な演習も行われました。参加者からは、学んだことをぜひ実践していきたい、とのコメントも聞かれました。



本邦研修 「LEP2.0 被災者への心理的ケア」 期間 2017年度～2019年度 馬側機関：保健省



## MJIT 産学連携のバイオベンチャーラボ開設

1月19日、スタートアップ支援を行う株式会社リバナスとMJITがバイオテクノロジーの共同開発のための研究室を開設しました。株式会社ユグレナおよび腸内細菌の解析技術を持つ株式会社メタジェンが入り、天然資源や微細藻類の研究、イスラム圏の人々の腸内細菌の解析等、健康関連事業での共同研究を始めました。

ほぼ赤道直下、常夏で生物多様性も高く、学生・研究者のレベルも高いマレーシアでのバイオテクノロジー分野の研究が今後も注目されます。



円借款附帯プロジェクト「マレーシア日本国際工科院強化プロジェクト」 期間：2018年7月～2023年7月 日本からの代表も参加した開所式  
 馬側機関：マレーシア日本国際工科院 (MJIT) / マレーシア工科大学 (UTM)

## MJIT日本語スピーチ、川柳、折り紙コンテスト

12月6日、JICAボランティアも活動しているMJIT日本語ユニットが、NPO法人 分析産業人ネットからの補助を受け、日本語スピーチ、折り紙、それに川柳のコンテストを実施しました。

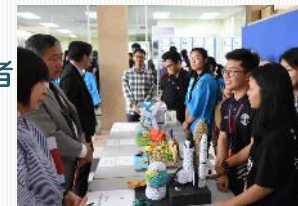
インターン期間中に感じた日本の季節の移り変わり、漫画が人生を開いてくれたこと等のスピーチは心に響くものでした。川柳コンテストは、日本語での川柳そのものだけでなく、試験・レポートや財布のさびしい学生生活等、その背景をプレゼンするセッションも設けられました。折り紙アートはいくつもの折り紙を組み合わせたまさにアート、見る人を驚かせていました。



賞状を見せる優勝者



川柳に込めた思い



高度な折り紙アート

## 日本式の下水处理場の運転・維持管理技術者を育成

11月14日、東京都の協力を得て実施した、草の根技術協力事業「IWKが管理する下水処理場の運転・維持管理に関する人材育成」の修了式を開催しました。この事業では、施設面積を狭くできる日本の技術を導入した下水処理施設の運営維持管理を行う人材育成のため、東京下水道サービス株式会社からの専門家による当地や日本での研修を行いました。処理場の運転や維持管理の技術を習得した職員は、後継を育成するマスタートレーナーとして活躍が期待されます。



IWK側からの記念品贈呈

草の根技協「IWKが管理する下水道処理場の運転・維持管理に関する人材育成事業」  
 期間 2017年12月～2018年9月 馬側機関：下水道事業公団 (IWK)





トピックス

## イスラム圏での食ビジネス ～ハラール&トイエバン～

ハラールビジネスは、百万ドル産業とも言われ、日本、タイ、ケニア、ベトナムなど、非ムスリム国でもハラールビジネスが広がってきています。

これは、ハラール製品、特に付加価値を付けたハラール製品である、ハラール・トイエバンへの需要が高まっていることが関与しています。



ハラール認証マーク↑

トイエバンとは、製品への高付加価値化、高品質化を指すものです。例えば、抗菌テーブル（抗菌がトイエバン）、清潔な調理台の上で清潔な包丁でカットしたチキン（清潔がトイエバン）、食品の鮮度・価値を保つための冷凍技術（高度な冷凍技術がトイエバン）等。

マレーシアは、ハラール食品の一大輸出国であり、世界でも有数のハラール認証を持つ国でもあります。日本は、というと、拡大を続ける輸出市場において、安心・安全な食品や食品保存の技術の世界のリーダーです。

世界中で、この数十年間、食の安全と保存に関する消費者の要求が高まり続けていることは事実です。ハラール市場もこの潮流に乗ってきており、したがって「ハラール」だけでは十分ではなく、「ハラール」と「トイエバン」が必要になっている時期が来ているのです。

この「ハラール」&「トイエバン」の需要の増加は、すでに安全な食についてのブランド力を備えた日本の企業にとって大きなチャンスになります。

1月24日には、2020年の東京オリンピックにマレーシアのハラール・トイエバンの製品やサービスを提供することを促進しようと、マレーシア起業家開発省がMalaysia Halal Expo 2019 (Malaysia 2 Japan)というフェアを開催しました。

日本企業にとっても、マレーシアのハラール・トイエバンについて知る機会となりマレーシア参加者にとっても日本でのハラール・トイエバンのハブとなる成長の機会を与えていたようにも思われました。

マレーシアのハラール認証と日本の世界トップレベルの安全な食品技術、この2か国のもつ優位性を組み合わせれば、ハラール・トイエバンのコンセプトでの勝算の方程式がきっと生まれると確信しています。

(文責：アイマン シディキ)



2020東京オリンピック  
向け、熱いセミナー会場

JICAマレーシア及びニュースレターのバックナンバーはこちら→ <http://www.jica.go.jp/malaysia/index.html>

JICAホームページはこちらから→ <http://www.jica.go.jp>

配信(追加、停止等)に関するご希望、ご意見、ご要望など → [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)

### JICA Malaysia Office

Level 29, Menara Citibank, 165 Jalan Ampang 50450 Kuala Lumpur Malaysia  
Tel: 603-2166 8900 Fax:603-2166 5900 E mail address : [ms\\_oso\\_rep@jica.go.jp](mailto:ms_oso_rep@jica.go.jp)